

ONLINE SUSAP 2022 SPRING

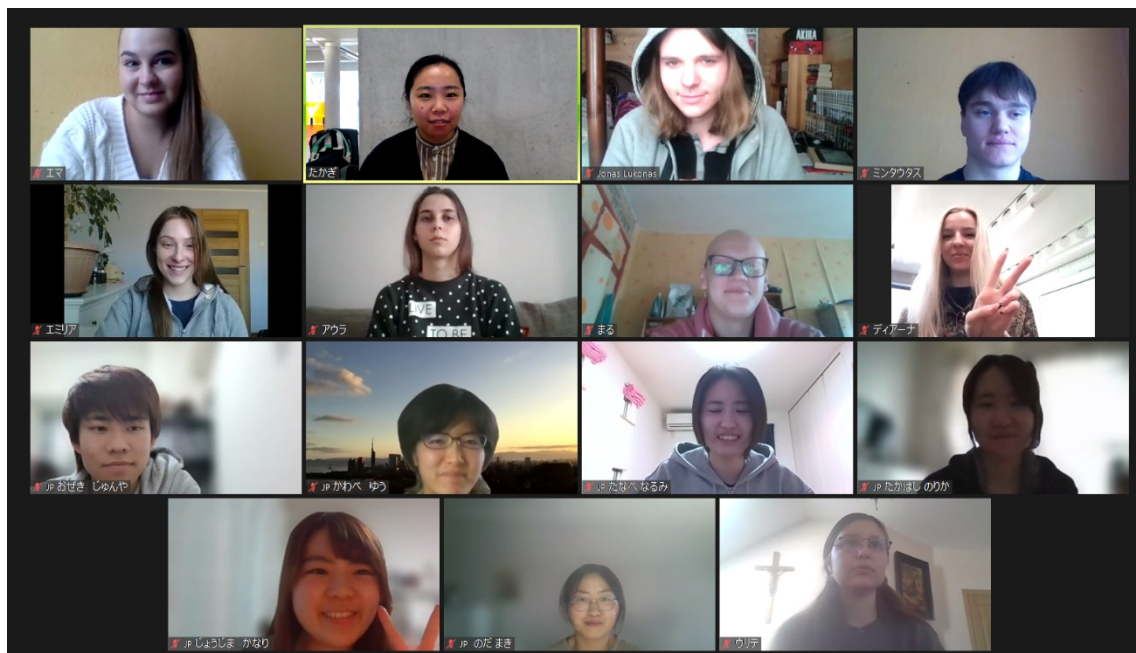
## リトアニアプログラム

### ヨーロッパの小国から学ぶ 国際関係と伝統文化

～リトアニアの歴史・文化・国際関係を学び現地の学生と交流しよう～

2022年2月28日～3月12日

## 研修報告書



## ○メンバー紹介

### ①名前

### ②学部学年

### ③研修に参加したきっかけ

### ④研修で見つけたリトアニアの魅力は？

#### ①城島叶愛

#### ②理工学部1年(新2年)

③このプログラムで大学の講義を実際に聴くことが出来るところに魅力を感じたから。

コロナが収束したら実際に海外留学をしてみたいと考えているので、実際に私の語学力でどこまで理解ができるのか自分を試したいという気持ちで参加を決めました。また、この経験が実際に留学をするときの練習になれば良いなと思い参加を決めました。

④キリスト教に基づく、歴史のある伝統文化が沢山あるところです。クリスマスイブに食べるものが決まっていたり、宗教と密接な暮らしがとても素敵だと思いました。

建国記念日や、独立回復記念日を盛大にお祝いする慣習もいいなと思いました。1度私も参加してみたいです。

#### ①川邊遊

#### ②教育学部1年(新2年)

③夏の SUSAP に参加した時にとっても充実した研修だったのでまたやってみたいと思ったのと、英語に触れる機会を持ちたかったから。また、リトアニアについて全く知らなかったのが新たに国の歴史や文化を知りたいと思ったから。

④小さな国であるからこそ言語や伝統文化をととても大切にしている日常生活などでそれが垣間見られるところで、日本のスタイルと異なる点が多くて興味深い！

#### ①野田真己

#### ②農学部3年(新4年)

③リトアニア人と交流できる貴重な機会ですし、講義と日本語授業がどんな感じなのか興味があったからです。

④実際に訪れて伝統料理や雰囲気を経験したくなる所です。

#### ①小関隼弥

#### ②理工学部1年(新2年)

③いつか留学したいと考えており、そのきっかけとしてオンライン留学に参加したいと思ったから。

④フレンドリーな方が多く、日本に興味を持っている学生も多くいた。

国土は小さいものの、伝統文化が多くあり、国民がそれを大切にしているのがとても伝わるいい場所だと思った。

#### ①高橋仁香

#### ②地域デザイン学部4年

③外国の文化に興味があり、リトアニアについてもっと知りたいと思ったから。

④歴史上において、日本との関係性が深い点。また、伝統的な文化の中では、特にリトアニアの食べものに興味を惹かれた。

#### ①田邊成美

#### ②経済学部1年(新2年)

③他国の文化に興味があり、あまり馴染みのないリトアニアに興味を持ったから。

④自国の文化を大事にしつつ、日本の文化も尊重している。日本に興味のあるリトアニアの学生との会話はとても楽しく、有意義だった。

## ○プログラム概要

オンラインで、リトアニアの文化、政治経済、歴史、民俗につき、講義やVDUの学生との協働学習を通じて学習し、異文化交流の体験を行います。開催期間中は毎日オンライン講義への参加、VDUの学生とのワークショップを通じた交流体験を行う。期間中、VDUの日本語・日本語愛好学生による「橋クラブ」との文化交流を実施し、日本文化・日本語を紹介し、リトアニア文化・リトアニア語を学ぶ機会が設けられています。また、1対1でバディーがつくことで現地学生との交流ができます。

## 講義内容

- ・Kaunas20220（現代文化・アート）
- ・リトアニアのコミュニケーション
- ・リトアニア語
- ・リトアニアの暦と伝統
- ・カウナスでの杉原千畝
- ・リトアニアの映像作品
- ・日リトアニア間の経済関係
- ・バーチャルトリップの内容
- ・日リトアニア関係
- ・リトアニア政治の歴史、バルト三国
- ・日本語クラスへの参加
- ・HASHIクラブとの交流



## ○ヴィタウタスマグヌス大学について

リトアニア共和国カウナス郡カウナス市に本部を置くリトアニアの国立大学。1922年創立。現在では8000人を超える学生と1000人ほどの教職員を抱えている。

過去のヨーロッパとロシアの不安定な国際情勢の中で何度も大学の名称を変更しながら、1989年から現在の名称となった。

大学には、経済経営学部、自然科学部、人文科学部、情報科学部、カトリック神学部、美術学部、音楽アカデミー、政治科学・外交学部、社会学部、教育アカデミー、法学部、農業アカデミーの12の学部・アカデミーがある。



M C M X X I I

VYTAUTAS MAGNUS  
UNIVERSITY



リトアニアを知りたい！

理工学部 理工学科 1年 城島 叶愛

正直なところリトアニアと聞いて、場所や名物がパッと頭に思い浮かぶ日本人はどれくらいいるだろうか。私はリトアニアのプログラムに参加するまで何一つリトアニアについて知らなかった。しかし、蓋を開けてみれば、リトアニアの人で日本のことを知っている人は多くいて hashi club という日本文化愛好サークルや、日本語の授業、大学に東アジアの専攻があるなど、遠くの国の人だと思っていた人が日本のことを学び、日本語で会話をし、日本の文化であるアニメが趣味だったり、将来は日本に住んで働きたいという人がいる話を聞いて、距離は離れていても心が近くにあるような気がして本当に嬉しかった。研修を終えてから、嬉しい気持ちと、リトアニアに行きたい気持ちでいっぱいになった。

しかし、事後研修にて、石松先生がお話されていた、「リトアニアは小さい国だから自分達が外国語を学んでアピールしていかなくては自国のことが伝わらない、生き残っていけないのだ」という言葉がずっと引っかかっていた。今回の研修でもそう感じたが、海外の学生は、沢山の言語を話すことが出来るし、自分の国の歴史や文化を知り尽くしており、自国愛というものを感じて、すごく驚かされた。それは、自分たちの国を知ろうとしてくれる人を待つよりも、生き残っていくために自分たちの国を自分たちでアピールして、自分たちが他の国のことを知ろうとしなくては他国と交流する術がなかった

からだったのだと気が付いた。また、なぜリトアニアの人がこの世の中で生き残ろうとするのか、そんな事は日本にいれば考えることは無いかもしれないが、ウクライナの深刻な状況を目の当たりにしている今、リトアニアがこれまで侵攻されてきた過去があったり、島国の日本にはわからない、自分たちの国が侵攻される怖さを知っているからこそその生き方だったのだと、新たに発見することができ、この時期にリトアニアのプログラムに参加できてよかったと思った。

研修中、講義の内容が分からなくて、あとでネットで調べても中々出てこず、ものすごく困った。リトアニアに関する日本語の記事は本当に少ない。だからこそ、この研修の後には、リトアニアのことをもっと知るために、自分が英語をしっかりと勉強したいと思うようになった。これは、自国のことを伝えるためにたくさんの方の言語を勉強しているリトアニアの人の気持ちと同じだと思う。そして、日本語を勉強する外国の人が多いのは日本人で英語を話せる人が少ないからなのか…？と考えるようにもなった。日本語を勉強する外国の人が増えることはとても嬉しいことだが、相手に全てを任せていて良いのだろうか？と疑問に思うようになった。私は相手を知るための努力として私達ももっと英語力を上げなくてはならないのではないかと感じた。私は実際にリトアニアに行き自分の力でもっとリトアニアのことを知りたい。

## 話して聞いて考えて 農学部3年野田真己

日本語が話せるのはこんなに嬉しいんだとシンプルに感じました。リトアニア人と日本語で会話するのは特別感がありましたが、日本人が英語で外国人と話すのと同じくらい普通でした。最初の日本語授業で自己紹介がありましたが、相手が理解できているのか心配して、普段しないような話し方をしてしまいました。普通に話していると担当の先生に言われて、自分はリトアニア人学生を見くびっているのではないかと反省しました。日本語授業で就活についてディスカッションした際、リトアニア人学生から就活のシステムについて学びたいですかと質問されました。どのように答えようかと考えている時間が長かったのか、質問の意味は分かりましたかと言われました。はいかいいえか、その理由を言えればいいだけなのに、また質問自体が難しいですとか何か言葉を発しないといけない場面で、うまくコミュニケーションが取れませんでした。自由に自分の考えを表現していい場があるのだから、とりあえずはっきり言うことは自分自身の課題だと改めて認識しました。

バディとの連絡も最初とても不安でした。向こうからの連絡を待つのではなく自分からよろしくと挨拶する、当たり前だけど積極性が大事ですし、今回そうならざるを得ない状況でした。勇気を出して送ったメッセージに返信がきたときはほっとしました。講義の後のフリータイムで、話題に困ってみんながしーんとしていた時には、彼女は日本の桜の開花予想を調べてシェアしてく

れました。日本語で電話できたのもいい経験です。リトアニアの独立回復記念日やウクライナのこと、決して他人ごとではないと思います。世界を知っているわけではないけれど、無視するわけにはいかないし、無知でいてはいけないと思います。独立回復がどれだけ大きなものかや、リトアニア語以外に何か国語も話せるなど、理解に及ばないこともありました。日本語を話す人がいなくなる、日本人というアイデンティティが失われるなど、危機感を持たずにいたので、平和に対して無自覚でいた自分に気づきました。日本語が話せるのは素晴らしいんだと、当たり前にも与えられた自由を再認識しました。

今回の研修でまた一つ興味のある国ができてよかったです。バーチャルツアーをしてさらにそこを訪れたいと思いました。オンラインは便利ですが、実際に会ったり行ったりするにはかかいません。お面を作るワークショップでパンケーキの紹介があったので、ポテトパンケーキではありませんが薄めのパンケーキっぽいものを焼いて食べました。バーチャル文化体験的で楽しかったです。

## 自分の世界を広げるために世界を知る 教育学部学校教育課程 1年川邊遊

リトアニアのヴィタウタスマグヌス大学の先生からの講義と日本語を学ぶ学生たちとの交流を通して、リトアニアの歴史や文化、習慣を学び世界に対する視野をまたひとつ広げることができたと思う。同時に、異文化交流の際には互いの価値観やアイデンティティを尊重することが大切であることを学び、さらに英語を始めとする語学力の向上が円滑なコミュニケーションを生んでより豊かな交流を導くと共に対等な立場で話すことを可能にするものであると痛感した2週間になった。

講義ではリトアニアの歴史や政治、経済、バルト三国や日本との関係、そして芸術や伝統文化について英語で講義を受けた。正直なところ聞き取って理解できた内容は割合的には半分いかないくらいのものであるが、事前研修での調査で得た知識を生かしつつ、知っている単語を拾い、画像を見て想像しながらなんとか食らいつけたのではないかと考えている。特に印象に残ったものとして、リトアニア語、伝統文化、日本との関係が挙げられる。リトアニア語は文法が複雑で、英語ともかなり異なっているため、ちょっとしたフレーズでも声に出して読むのは難しく感じたが、テキストを見ながらではあるが簡単な自己紹介を言えたことで、よりリトアニアが身近な国だと思えるようになった。長い歴史を経て今では400万人しか話す人はいないということだが、占領期などがあつた中で今日まで続いて

いることにとっても意味があると講義を聴きながら感じ、これから先も守っていくべき言葉だと感じた。伝統文化に関してはカトリックの教えに根付いたものであり、地域性もあってどれも興味深いものだった。リトアニアは小さな国であることから国を守るため、リトアニア人としてのアイデンティティを保っていくために、言語や文化を非常に強く大切にしているということを知り、それは島国で人口の多い日本としては考え付きにくいことであると気づかされ、私は私の生きる国、地域への意識を高める必要もあるのではないかと思わされた。そして、日リトアニア関係については、杉原千畝が取り上げられることが多いものだが、初めて公式にリトアニアを訪れた日本人が福沢諭吉であったことには非常に驚いた。日本に関心を持つリトアニア人がいることや、その後も両国間の交流が続けられてきたことを見ると、私はこの研修に参加するまでほとんどリトアニアのことは知らなかったが、もっと多くの人がリトアニアについて知るべきだと思った。

それから、HASHIクラブや日本語を学ぶ学生との交流を通して多くの刺激を受け、自らの英語力を高めなければと思わされた。リトアニアの学生たちは様々なきっかけをもって日本語を学んでいるわけであるが、大学3年生だと日常会話は全くの問題なくできていて佐賀大学の学生とクループトークする際には日本語ベースになるほどだった。彼らにとっては日本人以上に言語習得が生きる上で重要であるということだが、言葉を知っていれば、生まれも育ちも異なる人と繋がること

できるということ、そのレベルが高ければ高いほど通じ合えるということを今回改めて実感し、まずは英語力を高めなければと再確認する機会にもなった。

今回のリトアニア研修は夏に参加した Class Live マルタ & フィリピンプログラムあってこそそのものだったように感じる。夏の SUSAP は少々消極的なきっかけからのスタートであったが、とても有意義な時間を過ごすことができ、英語に関してはスピーキングの苦手意識を克服できた。その経験から今回はまた違う経験をした、もっと視野を広げたいという思いを持つことができ、積極的な行動ができたことによって、英語や講義の内容理解以上に異文化交流やコミュニケーションの面で得られたことが多かったように思える。なによりも自分自身の成長を実感できた部分が夏よりも多かったのもより実りのある研修期間だった。

2度の SUSAP での国際交流を通して、より刺激を受けて自分を成長させるために、常に英語の環境で過ごし、その土地の文化や習慣を肌で感じることができるといったようなより深みのある経験をした、と強く感じるようになった。世の中の状況が落ち着き SUSAP の研修で海外へ渡航できる時が来たら、次はぜひとも現地へ行って様々な経験をしてみたい。

## 自分について初めて知ったこと 経済学部経済学科 1年 田邊成美

私は今回、リトアニアのプログラムに参加しました。私はこのプログラムを通して、たくさんのことを学ぶことができました。その中で、最も印象に残っている二つを取り上げて話していきたいと思います。

一つ目は、日本語クラスです。日本語を勉強するリトアニアの学生の授業に参加しました。自分がネイティブスピーカーの立場の立ったのは初めてのことでした。とても貴重な経験だったと思います。私はこのクラスに参加して発見したことがあります。自分の積極性と行動力は、言語における自信からきている、ということです。英語で話すときは、話し方も変わり、言葉数も少なくなってしまう面がありました。しかし、日本語クラスではリトアニアの学生と活発に話せていました。自分が知っているかどうかで自信がなくなる人は多いと思います。私の場合はそれが顕著に表れていました。この気づきを活かして、今後の学校生活では事前学習にも力を入れていこうと思いました。私はこの経験を通して自分のことについて学ぶことができました。

二つ目は、VMU の学生との交流です。授業終わりのフリートークや、バディとの連絡、日本語クラスでの会話は、どれも楽しく、多くのことを学ぶことができました。バディとの連絡を通して得られたものは大きかったように思います。共通の趣味についておすすめを教えあったり、感想を言い合ったりしたことはとても楽



しかったです。日本語クラスの交流では、私の考え方を変えた出来事がありました。日本語クラスの中で、なぜ外国語を学ぼうと思ったのかという質問がありました。そこで、リトアニアの学生が「ただ外国語を学ぶことが好きだから。」と話してくれました。私もその意見に強く同意しました。それと同時に、外国語を学ぶ理由はこれで良いのか、と今まで引っかかっていたものが解けたように感じました。

この二つの話のように、今回の SUSAP では英語やリトアニアの歴史だけでなく、多くのことを学びました。私の今回の目標は、日本に興味がある海外の学生と交流をすることでした。振り返って見ると、その機会は多くあり、とても楽しく交流をすることができました。

今回の SUSAP はオンラインでの参加でしたが、とても有意義な時間を過ごしました。リトアニアプログラムでの経験は、今後の留学や英語学習、異文化交流にも役立てたいと思います。

## オンライン留学を通して 芸術地域デザイン 4年 高橋仁香

二週間のオンライン授業では主にリトアニアの経済や歴史を学んだ。英語での授業だったため、理解が及ばない点多々あったが、私が特に興味深く感じた授業は、リトアニアと日本の比較関係史である。日本からリトアニアに公式で初めて訪れたのが福沢諭吉であることや当時の日本とリトアニア人の交流によって、リトアニアには日本の絵画（浮世絵）がいくつかに存在していることなど、戦前から現在までの日リトアニアの歴史的背景を具体的に知ることができた。特に、杉原千畝の存在によって、カウナスにおける日本とのつながりが深いことは二週間の学習や交流を通してよく理解でき、こうした人物こそ日本の歴史学習で詳しく学ぶべきではないかと考えさせられた。さらに、1935年ごろには佐賀藩からリトアニアのカウナスに赴任した、八坂雅二（やさかまさじ）という人物に関して、佐賀藩出身という点や資料が少ないという点から興味深く感じた。こうした日本とリトアニアの国際関係は、第二次世界大戦が激化するに連れて薄まったものの、大戦後から現在までに、安倍首相を含めた政府の要人が訪れるなどして回復され、現在は良好な関係を築いているが、これからもそれを維持・強化していくことが、両国にとっても良い環境づくりにつながると思った。

また、今回の研修ではバディー制度があり、2週間の研修の中では、SNSを利用してバディーとのメッセージのやり取り



を行った。バディーとの交流を通して、自分の考えを正確に伝えるために、単語や接続語、イディオムを調べたことで、実際の会話で使うような実用的な英語を学ぶことができたが、これを繰り返し、身に付けることが必要だと感じた。フリータイムでは、バディーと互いに自己紹介のスライドをつくり、Teams を利用して紹介し合った後に、共通の趣味であるゲームをプレイした。英語を喋りながら、ゲームをプレイするということは初めてだったため、少し混乱したが良い経験になったと思われる。こうしたバディーとのやり取りや授業の質疑応答では、リアルタイムにおいて英語で伝える難しさを実感したが、貴重な機会となった。以上より、他国の人との意思疎通のためのアイテムとしての英語の重要性を理解し、英語勉強への意欲が研修以前より増した。

今後は院に進学し、現時点では卒業研究の日英関係史を発展させた研究をしたいと考えているため、今後は英語で書かれた論文などを読む必要がある。また、将来はどこか一か所に留まるのではなくさまざまな場所を訪れることができるような仕事をしたいと考えているため、英語のスピーキングやリスニング力を身に付けることが必要不可欠だと思われる。以上の理由から、今後の学生生活では、自分の専門分野を積極的に勉強しながら、英語の勉強を続け、その能力を高めたい。

## リトアニア研修を終えて

理工学部物理学科 1年 小関隼弥

まず、私がこのオンライン研修に参加した目的は、海外にも行ったことがない、海外の方ともあまり話したことがない、でも英語を上達させたいという気持ちはあるため、自らの英語学習の第一歩として参加した。この研修を通して、海外の方とのコミュニケーションの取り方、海外の方の考え方をたくさん学べたと強く実感している。

まずは、コミュニケーションの取り方について、私は以前まできれいな文法で話そうとするあまり、事前に会話を準備して時間がかかっていた。しかし、実際に一日の活動が終わった後のフリータイムでは同世代の海外の学生と話すため、会話のテンポは速く、会話を準備する暇などはなかった。そのために、きれいな文が思いつかないときは知っている単語を並べたり、ジェスチャーをつけたりして会話をを行った。そうすることで、自分でも驚くほど会話のテンポが上がり、自然と話せたり、相手を英語で笑わせたりできた。このことは、自分にとってとても大きな収穫であり、1日目のフリータイムで、すでにこの研修に参加した甲斐があったと感じた。また、リトアニアの方たちは会話の最中に相槌を打たないために自分の話が伝わっているか不安になることが多かったが、その不安を埋めるためには、はっきりとした受け答えや相手と自分のターンを意識するように心がけた。

また、実際にリトアニアの大学の日本語の授業に参加することもあった。そこでは、私たち日本の学生がネイティブスピーカーとして、リトアニアの学生とディスカッションを行った。私自身がネイティブスピーカーになることは初めてで、リトアニアの学生がなぜ数ある言語から日本語を学んでいるのか質問する中で、とても大切なことに気づかされた。それは、勉強に対する目的と意欲である。日本人の多くは、義務教育で英語を学び、何のために英語を学んでいるか決めていないと思う。しかし、リトアニアの学生は、日本の漫画、アニメが好きだったり、日本の文化が好きだったりして、日本語を学ぶための目的がはっきりしており、勉強するほどより自分の好きなことが楽しめると言っていたり意欲もすごくあった。この学びに対する自分自身の目的や意欲はどんなに小さくてもよく、また、言語学習に限らず全てにおいてとても大切なことだと思った。

他にも、この研修の主な取り組みとして、リトアニアと日本の歴史的なつながりなども学んだ。今日まで続くリトアニアと日本の関係においてその大部分は杉原千畝によって築かれたものであることは知っていたが、それよりおよそ100年前から繋がりがあったことや、ニュースなどではあまり取り上げられない現代にも続く関係などを主にリトアニア視点から学んだ。そこでは、例えば、今から約100年以上前リトアニアの方たちに日本の浮世絵がとても人気があったり、杉原千畝の偉業後、日本から送られた多くの桜などで花見を行ったり、外交的な繋が

りだけでなく、文化や慣習などより人々の直接的な思想に基づいた学びもあった。また、今の危険な国際情勢についての話も聞くことで、ほぼ当事者である方たちの意見を実際に聞いたことはとても貴重で自分自身の視野がとても広がったと感じた。最後に、この研修を通して私は言葉では言い表せないものも含めて本当に沢山のことを学んだ。この経験を風化させないために日々意識して今後の学校生活を送っていききたい。